

## 都市公園に新たな魅力を

四日市市の中央緑地が新たに生まれ変わる。

同緑地は東京ドーム約6個分の広さを有する都市公園。公園内にある総合体育館は東海地域有数のアリーナとして建て替えられており、2021年9月開催の三重とこわか国体・三重とこわか大会の競技会場としても利用される予定になっている。

四日市市は、公園内の各種スポーツ施設やトリムコースの利便性向上に着目。公園内に広場やカフェ・レストランなどの便益施設を設置・管理する民間事業者を募集し、県内の建設企業が選定（同年4月開業予定）された。

民間事業者の提案によると、既存樹木を残しながら、芝生広場などを整備して憩いの場を提供したり、夜間景観に配慮した照明を配置して優しい光で癒やしたりするコンセプトになっている。

便益施設としては、ガラス張りの明るい外観で内装には木を多く使い、温かみのある空間にデザインした建物を整備し、中にはレストランや大手コーヒーチェーン、親子で楽しむカフェを配置する計画になっている。四日市産の食材を使用したメニューの提供や、お皿やカップには地元の萬古焼の使用を予定するなど、県内企業ならではのアイデアがちりばめられている。

県外の都市公園では、名古屋市の名城公園内にカフェのほかリラクゼーション施設やランナー向けのシャワールームが配置されるなど、活性化している事例がみられる。県内には、鈴鹿青少年の森や大仏山公園など多数の都市公園があり、県内企業ならではのアイデアや工夫で再整備された公園に新たな魅力が生まれれば、公園を利用する人々の楽しみ方が広がり、新たなにぎわい創出が期待できる。

県内での拡大が楽しみだ。

（コンサルティング事業部 PPP/PFI グループ 主任研究員 小林 靖司）